

## 浅草ユビキタス観光ガイド実証実験

### 1. 目的

観光客の満足度向上に重要な役割を担う観光情報提供のあり方を調査するため、ユビキタス・ネットワーク技術を利用することにより、観光客（特に外国人観光客）のニーズに合わせた情報提供に関する実証実験を実施し、実用化に向けた課題の抽出と実用可能性の検討を行った。

### 2. 概要

#### (1) 実験期間

平成 17 年 4 月 18 日～平成 17 年 5 月 31 日

#### (2) 実験対象エリア

東京都台東区浅草地区

#### (3) 実験方法

浅草地区の浅草寺、史跡、商店街等 100 箇所以上に IC タグ、赤外線マーカを設置し、携帯情報端末「ユビキタス・コミュニケータ」によりその場所に応じた観光情報を提供する実験を実施した。

実験参加者は浅草地区に宿泊した一般の観光客を対象とし、参加者に携帯端末を貸出し、浅草地区で自由にユビキタス観光ガイドを体験してもらった上で、アンケートにより機器の使用感等について調査した。

なお、携帯端末は、日、英、中、韓の 4 カ国語に対応し、文字・画像の表示及び合成音声による読み上げ機能を有している。また、画面上に表示された地図により現在の位置を確認できる機能を搭載し、さらに、実験参加者が利用した後、実験参加者に提供した情報を記録し、観光客の行程を分析できる機能を搭載している。

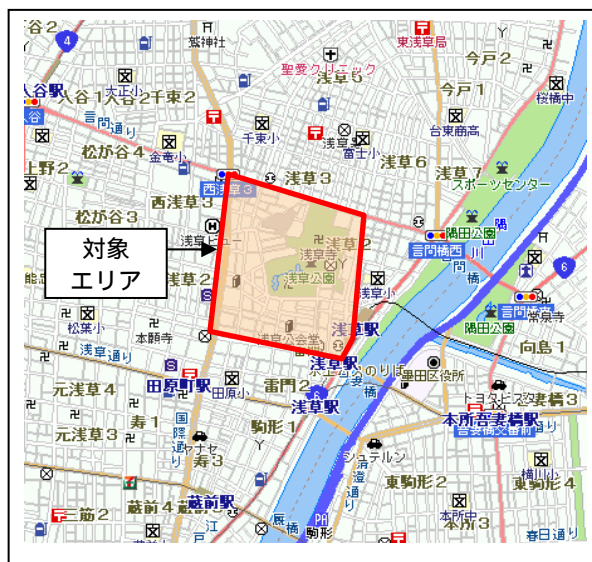


図 1 実験対象エリア



図 2 ユビキタス・コミュニケータ



図 3 商店街に設置した赤外線マーカ

### 3. 実験結果

ユビキタス観光ガイドにおいて場所に応じた情報を小型の携帯端末で簡単に得ることができるのは、日本人観光客だけでなく外国人観光客にも高く評価された。また、祭事等の動画については、その場では見るできない様子を感じることができ等、観光地の再訪の誘発につながることも明らかとなった。

今後の課題としては主に以下のとおり。

#### < IC タグの認識性 >

- ・ IC タグを設置している場所のわかりやすさは、設置する場所によって大きく異なった。より認識されやすい場所に設置する必要がある。

#### < 使用感 >

- ・ コンテンツの量、文字の大きさ、携帯端末の操作のしやすさについては適切であった。

#### < 使用可能な時間 >

- ・ 使用中にバッテリーが切れる等、使用可能な時間に不満を持つ意見があった。持続時間を長くする必要がある。



図4 IC タグを読み取る実験参加者